



～第4回「前年比・前期比，原数値・季節調整値とは？」～

- 「地域経済報告」等による景気判断では，消費，生産，物価，労働など各種指標を活用していますが，経済関係の指標を見る際には，いくつか注意すべき点があります。なかでも，前年比と前期比は活用を間違えると，世の中の現実の動きや変化を見誤ることにつながります。
- そこで，第4回目は「前年比・前期比，原数値・季節調整値とは？」をテーマに，前年比・前期比の活用のポイントと，算出の際に活用する原数値・季節調整値について解説します。

1. 前年比・前期比

【ポイント】

- ・前年比は大きな流れ，前期比は足元の動きや景気の転換点を把握するのに適している

経済関係の指標では，数値とともに，数値をある基準時点と比較する前年比や前期比を見ることで，数値の水準や方向性の把握がしやすくなります。

前年比は，前期比よりも，大きな流れを把握するのに適しています。また，1年前の同じ期の数値と比較するので，天候や習慣など季節的な要因に左右されにくいという特徴があります。

一方，前期比は，1期前の数値と比較するので，足元の動きや景気の転換点などを把握するのに適しています。前月の数値と比較する前月比も前期比のひとつです。

2. 前年比の問題点

【ポイント】

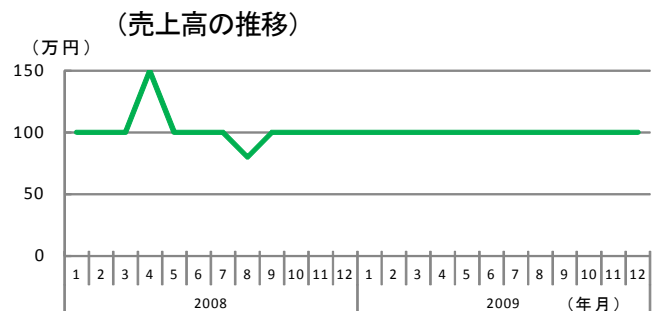
- ・前年比だけでは前年の特殊要因の影響やトレンドの転換を見落とすことがある

前年比には季節性のある数値をそのまま比較できるというメリットがありますが，前年比だけを見ると，実態を見誤るケースがあります。以下では，企業の売上高の推移を参考事例に，それら

のケースを紹介します。

第一に，前年同月に特殊要因などで異常値が出たケースです。図表1で前年（同月）比を見ると，2009年4月が不振，8月が好調に見えますが，実際は2008年4月の大幅増や8月の大幅減の反動によるもので，前月比を見ると，2009年の売上高に変化がないことがわかります。

図表1 前年同月が異常値のケース



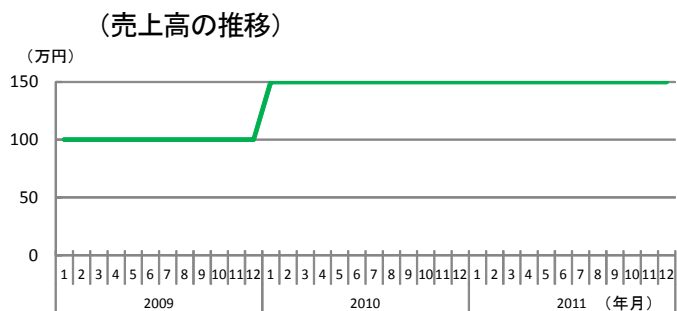
(前年（同月）比，前月比の推移)

	前年（同月）比 (%)	前月比 (%)
2009年1月	0.0	0.0
2月	0.0	0.0
3月	0.0	0.0
4月	▲ 33.3	0.0
5月	0.0	0.0
6月	0.0	0.0
7月	0.0	0.0
8月	25.0	0.0
9月	0.0	0.0
10月	0.0	0.0
11月	0.0	0.0
12月	0.0	0.0

第二に，売上高が一度変化したまま動かないケースです。図表2で前年（同月）比を見ると，2011

年に入り売上が伸びなくなったように見えますが、前月比を見ると、すでに2010年2月から売上高に変化がないことがわかります。

図表2 一度変化したまま動かないケース

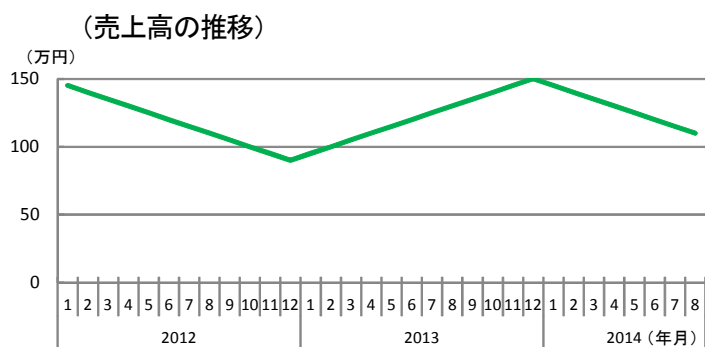


(前年(同月)比, 前月比の推移)

	前年(同月)比 (%)	前月比 (%)		前年(同月)比 (%)	前月比 (%)
2010年1月	50.0	50.0	2011年1月	0.0	0.0
2月	50.0	0.0	2月	0.0	0.0
3月	50.0	0.0	3月	0.0	0.0
4月	50.0	0.0	4月	0.0	0.0
5月	50.0	0.0	5月	0.0	0.0
6月	50.0	0.0	6月	0.0	0.0
7月	50.0	0.0	7月	0.0	0.0
8月	50.0	0.0	8月	0.0	0.0
9月	50.0	0.0	9月	0.0	0.0
10月	50.0	0.0	10月	0.0	0.0
11月	50.0	0.0	11月	0.0	0.0
12月	50.0	0.0	12月	0.0	0.0

第三に、トレンドが転換したケースです。図表3で前年(同月)比を見ると、2013年7月から売上高が増加し、2014年7月から減少が始まったように見えますが、前月比を見ると、実際は2013年1月から増加し、2014年1月から減少が始まったことがわかります。

図表3 トレンドが転換したケース



(前年(同月)比, 前月比の推移)

	前年(同月)比 (%)	前月比 (%)		前年(同月)比 (%)	前月比 (%)
2013年1月	▲ 34.5	5.6	2014年1月	52.6	▲ 3.3
2月	▲ 28.6	5.3	2月	40.0	▲ 3.4
3月	▲ 22.2	5.0	3月	28.6	▲ 3.6
4月	▲ 15.4	4.8	4月	18.2	▲ 3.7
5月	▲ 8.0	4.5	5月	8.7	▲ 3.8
6月	0.0	4.3	6月	0.0	▲ 4.0
7月	8.7	4.2	7月	▲ 8.0	▲ 4.2
8月	18.2	4.0	8月	▲ 15.4	▲ 4.3
9月	28.6	3.8			
10月	40.0	3.7			
11月	52.6	3.6			
12月	66.7	3.4			

3. 原数値・季節調整値

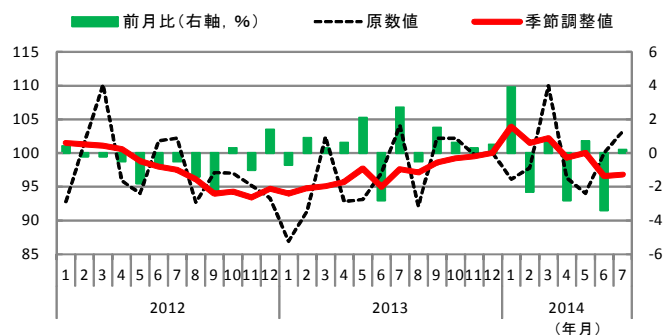
【ポイント】

- ・季節調整値は四半期(月)ごとの変動である
前期比(前月比)を見る場合に活用される

原数値は数値に何も調整、加工をしていない経済活動から得られた数値そのものです。一方、季節調整値は原数値から夏季の清涼飲料水の販売増やお中元・お歳暮期の百貨店販売額の増加など天候や習慣等の季節的な要因を取り除き数値を経済の実勢に近づけたものです。

季節調整値は前期比(前月比)を見る場合に活用されますが、図表4の鉱工業生産指数の動きのように、季節調整値そのものをグラフ化すると増減のイメージがつかみやすくなります。また、参考に原数値をグラフ化してみると、3月に生産が増加し、年始やお盆で工場の稼働日が少ない1、8月などに減少するという季節性があることがわかります。

図表4 鉱工業生産指数の動き



経済・産業調査担当 小出 修司

《参考文献》

東洋経済新報社「初心者のための 経済指標の見方・読み方」